

新西町内会広報

発行責任者 小関日出男

「米寿のお祝い」と「落語風講話の夕べ」 9月15日開催

◆米寿を笑いで祝う

敬老の日の2日前の15日に新西会館において「米寿と落語のお楽しみ会」が34人の参加で開催された。

上村幹事の司会で、該当者の昭和4年10月から5年9月までに生まれた5名の方が紹介され、岡本会長が「町内発展に寄与されたことに感謝します。米寿を迎え健やかに幸せに過ごしてください」と挨拶し、記念品を手渡した。また、今年百歳を迎えた馬場智子さんには、後日お祝いが届けられた。

被表彰者を代表して酒本俊子さんより「会長の暖かいお言葉、記念品までいただきありがとうございます。年を重ねて不自由になるので町内会の皆さん方よろしく願います」と、



酒本さんが代表してお礼の挨拶

▼米寿被表彰者 (敬称略)

- 千代子 藤木 千代子
- 大俊子 藤木 大俊子
- 秀キミ子 藤木 秀キミ子
- 佐佐酒近東 藤木 佐佐酒近東

◆戦前戦後の苦労話

15歳のとき敗戦。食べ物には苦勞した5名中、黒一点の佐々木大吉さんは、尋常小学校高等科で終戦を迎え「青年学校の人に竹槍の訓練をやらされた。アメリカの艦載機が留萌沖から飛んできて近文あたりを空襲に行くのを何度も見た」と当時を思い起こし話してくれました。

佐藤千代子さんも「学校ではなぎなたをやらされた。父が満州に働きに行き母と子どもで苦勞した。特に食べ物には」と。子どもの頃、日中戦争、大東亜戦争の時代を過ごし、高度経済成長を担ってきた皆さん、ご苦勞様でした。20年後に米寿を迎える女性「頭しっかり、足もしっかり」。その心は「だっどどこにも行けないじゃないの」と謎かけ風に答えてくれた。

「秋の清掃」と「消火・救命訓練」 9月30日実施

旭川ハーブマラソンの行われた30日「秋の清掃」に合わせ胆振東部地震で延期していた「防災・消火訓練」が実施された。

◆秋の清掃

清掃は自宅前の雑草の刈り取りと空き缶などのゴミの収集を目的に行った。

◆笑いは長寿の秘訣

お楽しみは「落語と長寿」と題し五百仏寺(いおぶじ)住職の、旭笑長屋で女坊家弁慶(おんなほけけんけい)の名で活躍している藤倉住職の落語と漫談の約1時間。落語の起源は説教をおもしろ可笑しく話した事から来たという正に原点の落語。



女坊家弁慶さん

「笑いは長寿の元、ナチュラルキラー細胞が出来てガンをやっつける。おもしろくなくても笑うこと」「落語三席聴くと病院より効く」と笑いをとり、楽しい時間を過ごさせてくれた。(小関)

◆消火・救命訓練

高等支援学校から生徒、先生など15名ほどが学校の周りのゴミ拾いで参加。小学4年生の女の子もいてゴミを見つけると駆け出し火鉢でつかみ母親の持つ袋に入れていた。町内の参加者は40名ほど、ゴミ拾いしながら、旭西第一公園を目指した。ゴミそのものは少なかったが、目立ったのは道路端や空き地、それに頓着しない家の前などの雑草。美観を損ねるため特別の対策が求められる。

消火訓練は、合田防火部長の挨拶の後、南消防署の指導で、自主防災井戸から消火ポンプを自動させての放水訓練をし、つづいて消火器の使用訓練があった。気を付ける事は、使うときに逃げ道を考えるほどほどこに行うようにとの由。



消火器の使い方訓練

AED体験は貴重 会長の勧めでAED(自動体外式除細動器)の訓練と心臓マッサージを体験した。

やってみて感じたことは、救急車の通報は出来るがAEDを見つけてるのは難しいだろうし、救急車の着くまで1分間に120回のペースであれば骨が折れるぐらい心臓マッサージをし続けること。腰が痛くなってしまった。災害時の非常食は、家に持ち帰って試食した。味はまずまずで、漬け物の二切もあれば結構だと思った。ともあれ、参加された皆さんご苦勞様でした。(小関)



心臓マッサージとAEDの訓練

◆会館裏の土地を購入

新西会館は、ご承知のように片流れ屋根のため、落雪が裏地へ侵入しないよう雪止柵で対処している。裏にあった家が取り壊され、整地・測量され、今年、柵の基礎部分のみ出していることが持ち主から指摘された。柵を取り外す訳にはいかず、雪が落ちる衝撃で柵が倒れる恐れもあり、柵の補強も必要。役員会の開催により、土地を取得して対処しなければならぬと決定。現在交渉中。

編集後記

▽今号は取り上げるべき行事が多く、知らせたい内容も多し▽広報部長がたくさん語る▽この結果、写真を削り、記事も割愛。代わりとして辛口コラムを設けることに▽しかし、少し後記らしくなったようで、三方一両損かも。(お)

広報部長の辛口コラム

全道204円、旭川132円 ナンの数字と思うか▼赤い羽根共同募金の世帯平均額を比べた昨年の数字(共同募金委員会)。旭川は率にして65%と極端に少ない。この傾向は続いている▼以前は、町内の赤十字の社員の方々の募金もあったが、今は町内会で1万円寄付し、後は個人まかせと集金方法の違いもあるだろう▼募金が善意の表れの指標とすれば思いやりの足りない街と言え過ぎか▼緑多い温暖な国というイメージが

崩れ災害の多い、それも大規模に毎年襲ってくる災害大国に▼被災された方々の事を思うと胸が痛む。ボランティアに駆けつける気力も体力も金もない身として出来ることはスーパリーの募金箱に釣り銭を入れるくらいか▼高齢で退位される天皇陛下の被災地を巡る姿、先の大戦の激戦地を巡る慰霊の旅を見る都度、政治力を持つことが許されていない象徴天皇の国民を思う気持ちを感じるのは年の所為か▼米寿まで届かぬ73才。60にして耳順(したが)うー長生き時代で10歳プラス(小関)